

■ワークスしんあい(令和元年度事業報告)

令和元年度経営方針

- (1) **就労移行支援事業** ハローワークや就業・生活支援センター等の関係機関と連携し、一定期間内に利用者が就職できるよう支援を行う。また、定期的な職場訪問と就職者からの相談に応え、その調整を図り職業生活が継続できるようフォローアップを行う。
- (2) **就労継続支援B型事業** 作業班ごとに作業の充実を図り、工賃向上を目指す。また、利用者の適性に応じて作業を選択できるよう配慮し、働く場として利用者の環境整備を行う。また、特別支援学校や在宅の障がい者等の実習受け入れを行い、地域の社会資源としての役割を果たしていく。
- (3) **生活介護事業** 日中活動として各種の生産活動を設定し、個別支援計画に基づき、働くことの基本姿勢を身に付ける。また、利用者の個々に抱える生活上の課題について、関係機関と連携を図り、定期的なケース会議や職員間での検討を通じて解決の方法を見出していく。

令和元年度取り組み

1 利用者支援

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 就労支援</p> <p>① 就労支援員を中心に個々に応じた支援体制を作り、年間1名以上の就職者を出す。</p> <p>② ビジネスマナー講習や職場見学会などの機会を提供する。</p> <p>③ 地域の状況も踏まえながら、今後の事業の継続について検討していく。</p>	<p>① B型から「就職者1名、A型への移行1名」を出すことができた。</p> <p>② ビジネスマナーは毎月予定通りに開催できた。毎回5名以上が熱心に参加。</p> <p>③ 6月末日で、就労移行を廃止した。その後も就労移行の利用希望者はなかった。</p>
<p>◆ 安定した作業を提供し、売り上げ向上を目指す</p> <p>① 新しい作業を提供し、作業の安定、工賃アップを目指す。</p> <p>② 利用者の状況を踏まえたグループ分けを行い、個々に合った日課の提供ができるよう見直していく。</p> <p>③ 強度行動障害の方に対し、安心して過ごせる環境づくりを行っていく。</p>	<p>① 新しい箱折りの仕事は、平均的に請け負うことができた。</p> <p>② 利用者の希望や状況を踏まえて、作業班においてグループ分けを実施、今後も継続していく。</p> <p>③ 作業室内パーテーションの準備など進めなかったが、次年度は構造化を目指し取り組んでいく。</p>

<p>◆ ひととき、カー口の安定的な運営</p> <p>① 消費税を考慮し、商品の価格見直しを行う。</p> <p>② ユニフォームを一新し、清潔感のある明るいお店作りを行う。</p> <p>③ 食品表示法(2020年3月31日経過措置終了)に伴う商品ラベルの移行を順次行っていく。</p>	<p>① 増税に伴う価格の見直しは適切に行えた。</p> <p>② ユニフォームの一新を目指していたが、消費税増税・クリスマス時期の販売・コロナウィルス感染拡大防止の対応などに伴い、行えなかった。次年度にはすぐに一新できるよう対応する。</p> <p>③ 予定した栄養分析機を購入し、4月より新規ラベルが使用できるよう準備ができた。</p>
<p>◆ 魅力ある活動の充実</p> <p>① 利用者の声や想いを反映させ、「行きたい」「参加したい」と思える活動を企画していく。</p> <p>② 生活介護利用者への定期的な運動の機会を継続して設ける。</p> <p>③ 利用者の状況を踏まえ、休日を開所し小集団での外食の機会を提供する。</p>	<p>① 旅行(日帰り東京方面 宿泊広島方面 箱根方面)や休日開所(17回)など、利用者の希望を尊重して行うことができた。</p> <p>② 散歩を設定し、歩く機会を設けた。休日開所ではレクスポーツ等を取り入れて行った。</p> <p>③ グループホーム利用者などに、外食をする機会を設けることができた。</p>

2 人材育成

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 研修への参加</p> <p>キャリアパスに応じた研修参加をすることでモチベーションや、資質の向上に繋げる。</p>	<p>キャリアパスに応じ必要とされる研修を優先して受講した。</p> <p>埼玉県社会福祉協議会等主催研修 8名 強度行動障害基礎研修 1名 強度行動障害実践研修 1名 外部研修への参加者が偏ってしまった。</p>
<p>◆ 人材の育成と役割の明確化</p> <p>① 職員の役割を明確にし、個々の仕事に対する意識を高めていく。</p> <p>② 職員アンケートの実施や改善提案書の提出を推進していく。</p>	<p>① 職員の役割は明確にしていたが、役割の指示・説明・職員間のコミュニケーションが不足から、さらなる意識の向上にはつながらなかった。</p> <p>② 当初は改善提案が上がった。後期は改善提案書の提出推進が及ばず、件数は少なかった。</p>

3 施設設備管理

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 業務の効率化</p> <p>① 時間の有効活用を行い、無駄のない業務遂行を図る。</p> <p>② パソコンのウィンドウズ 10 への移行に伴うパソコンの入れ替えを行う。</p>	<p>① 日中の時間の配分により、事務など効率的に行えた部分もあった。</p> <p>② パソコンの入れ替え 5 台は滞りなく行えた。</p>
<p>◆ 給食</p> <p>① 配膳環境を整え、食事の適時適温提供を行う。</p> <p>② 食品を扱う場所では、清掃や衛生チェックを徹底し、衛生的な環境を保持する。</p>	<p>① 電磁調理器を使用し、温かい物が提供できた。</p> <p>② 記入忘れなどにより、チェック表の提出が遅れてしまうことがあったが、清掃やチェックはしっかりと行っていた。</p>
<p>◆ 利用者の登所日数の安定化</p> <p>① 月の開所日数を 22 日以上に設定する。</p> <p>② 休みがちな利用者への積極的な声掛けを行う。</p>	<p>① 全体を平均して、22 日以上にはなつたが、月単位で見ると下回る月も複数あった。</p> <p>② 一定の成果が見られ、登所の増加した利用者もいた。</p>

4 危機管理

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ リスク管理の徹底</p> <p>① ひやりはっと報告の積極的な提出を促し、再発防止策の検討・実施を通じて支援の質を高める。</p> <p>② 火災報知機や AED の保守点検を行うほか、消化避難訓練等を通じて職員の防災意識や緊急時における対応力を高める。</p>	<p>① 報告書の提出が少なく、防止策の検討についても課題である。</p> <p>② 予定した AED は購入した。火災報知器の保守点検や避難訓練は適切に行われた。職員の防災意識も避難訓練の回数を重ねることによって改善が見られるようになった。 (避難訓練 9 月・3 月 実施)</p>
<p>◆ 虐待防止体制の整備</p> <p>① 研修会への参加を積極的に行う。</p> <p>② 事業所内で虐待防止研修を年に 1 回以上開催し、職員の意識の向上を図る。</p>	<p>① 外部研修に参加経験が無い職員の研修を優先して行った。</p> <p>② 職員会議内でも検討会議を行った。外部研修経験者による内部研修も開催し、各職員で虐待防止の重要性を学んだ。</p>

5 その他

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 方針の周知徹底</p> <p>① 職員の引き継ぎや連絡ボードで情報共有し、職員間のコミュニケーションを推奨していく。</p> <p>② 月に一度の職員会議や連絡会議、各法人委員会等で方針の周知徹底を図る。</p>	<p>① 日々の引き継ぎ用紙を活用し、各職員がその情報を把握するよう努めた。</p> <p>② 日々の引き継ぎや職員会議等での情報共有を図った。</p>
<p>◆ 地域活動への参加</p> <p>① 地域での販売、行事等へ積極的に参加する。</p> <p>② 地域活動を通じて、利用者の社会参加と地域の方たちとの触れ合いの機会を支えていく。</p>	<p>① 例年通り、様々な行事等で販売をし、地域とのつながりを感じることができた。長い間、販売に参加していなかった利用者も参加することができた。</p> <p>② 青年学級南学級担当として、今年度も4名の職員が参加した。ボランティアとの関係も維持し、障害者の地域参加を支えた。</p>

■ ワークスしんあい（令和元年度事業報告 資料）

令和2年3月31日現在

①利用者状況

(1)障害支援区分(名)

支援区分	生活介護			就労継続			就労移行		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
区分6	9	1	10	2	0	2	0	0	0
区分5	9	2	11	1	0	1	0	0	0
区分4	4	2	6	1	0	1	0	0	0
区分3	1	0	1	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	2	1	3	0	0	0
区分1	0	0	0	11	3	14	0	0	0
なし	0	0	0	0	0	0	2	2	4
合計	23	5	28	17	4	21	2	2	4

* 就労移行事業は 令和元年6月30日で終了

(2)年齢構成(名)

区分 種別	性別	20歳未 満	20歳以 上～30 歳未満	30歳以 上～40 歳未満	40歳以 上～50 歳未満	50歳以 上～60 歳未満	60歳以 上	平均 (歳)
		就労移行	男	2	0	0	0	
	女	2	0	0	0	0	0	18.0
	計	4	0	0	0	0	0	18.0
就労継続 B型	男	0	7	3	3	3	1	36.1
	女	0	2	1	0	1	0	34.2
	計	0	9	4	3	4	1	35.4
生活介護	男	0	3	8	6	2	4	39.7
	女	0	1	0	0	3	1	50.0
	計	0	4	8	6	5	5	41.6

* 就労移行事業は 令和元年6月30日で終了

②事業所状況

(1)各事業の実施状況

事業名	定員(名)	平均利用人数(名)	利用率(%)
就労移行支援	6	1.8	30.0
就労継続支援B型	20	15.7	78.5
生活介護	20	22.2	111.0

* 就労移行事業は 令和元年6月30日で終了

(2)実習生・研修生の受け入れ

区分	実習校等(か所)	人数(名)	延べ日数(日)
実習生	3ヶ所	15	77